

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02512

研究課題名(和文) 19世紀～20世紀における漢訳新約聖書の聖書語彙に関する訳語の通時的比較研究

研究課題名(英文) Comparative and diachronic studies of terms in the various Chinese New Testaments from 19th century to 20th century

研究代表者

永井 崇弘 (NAGAI, Takahiro)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(総合グローバル)・准教授

研究者番号：80313724

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本課題で、19世紀～20世紀の漢訳聖書の聖書語彙に関する訳語の対照表を作成する過程において、まず対照表で使用する版本を考察し、各聖書の代表的な版本の特定ができた。次にバセ訳、マーシユマン訳、モリソン訳、文理和合訳、南京官話訳、北京官話訳、官話和合訳については、全文の電子テキスト化を行い、容易に訳語を検索できるようにした。さらに訳語対照表の作成により、1つの語(句)に対する複数の漢訳聖書の訳語を確認することが可能となり、研究論文5編、国際学会を含む学会口頭発表4件という大きな成果を得ることができた。特に代表的な「Logos」の訳語では11種の聖書で比較がなされ、その形成と定着過程が解明された。

研究成果の概要(英文)：In the process of preparing the table of terms in the various Chinese New Testaments, first, we defined the representative versions of Chinese Bibles which should be used for this term table. Second, we prepared the electronic texts of whole Chinese New Testaments such as Basset translation, Marshman translation, Morrison translation, Wenli Union translation, Nanjing Mandarin translation, Beijing Mandarin translation and Mandarin Union translation. And this is more useful to referring every terms of the Bible. Furthermore, through this table of terms, it became possible to compare with each various translations of terms, and we got excellent results such as 5 research articles and 4 research presentations which included the presentation of international academic conferences. Especially, the typical term of "Logos" as the substance of God was compared with the eleven translations of Chinese New Testament, and this research made clear its formation and changes.

研究分野：中国語学

キーワード：漢訳聖書 聖書語彙 訳語の比較 訳語比較一覧表 全文電子テキスト化 19世紀～20世紀

### 1. 研究開始当初の背景

これまでの近代中国語の語彙の形成およびその変遷についての研究は、各研究者の主観的判断により考察対象の語が定められて個々に考察が行われてきた。本課題では聖書語彙という範囲において、従前の個別的研究の問題を克服するような、漢訳新約聖書の全ての聖書語彙についての各種訳本における表記(訳語)とその通時的変遷の解明が必要であった。そのために、聖書語彙を定義し、すべての聖書語彙を対象とした網羅的な訳語の対照表を作成し、その訳語対照表に基づいて、漢訳聖書における特徴的な訳語を鑑定語として抽出、考察する必要があるとなった。なお、19世紀初頭のプロテスタントの宣教師渡華前後から実質的に外国人宣教師の活動が制限される中華人民共和国成立までにわたって、多くの訳本が存在するプロテスタントによる漢訳新約聖書から解明を始めることとなった。

### 2. 研究の目的

本研究の主な目的は4点である。1つは、聖書語彙とは何かを定義すること、2つは訳語対照表を作成すること、3つは訳語対照表を作成することを通じて、また作成した訳語対照表を利用して、全体的な訳語の変遷を把握し、聖書漢訳史における各訳本の位置づけを明らかにすることである。また複数の訳本の訳語を比較することを通して、特徴的な聖書語彙の語を鑑定語として抽出するとともに、その訳語の形成および変遷の要因を明らかにすることである。さらに、4つは訳語対照表を作成する際に必要となる、各訳本における最適な版本の特定である。

### 3. 研究の方法

本研究では、1922年に出版された『経文彙編』(芳泰瑞編)とそのピンイン排列版の『経文彙編』(劉重明主編)にある見出し語を訳語対照表の聖書語彙として抽出し、ピンイン順に配列するとともに、各語句の聖書箇所(文書名、章節)を記した(平成27年度)。作成した見出し語(簡体字)に対する各種聖書における訳語を入力し、複数訳本間での訳語を比較できるようにした。この作業の効率化を図るため、バセ訳、マーシュマン訳、モリソン訳、文理和合訳、南京官話訳、北京官話訳、官話和合訳の7種については、その全文を電子テキスト化し、該当する語句の検索と対照表への入力に資するものとした。(平成28年度~平成29年度)

このようにして、複数の訳本における訳語の異同を明確化し、聖書語彙全体の訳語の趨勢と変遷を解明することができた。また、この訳語対照表により、特徴的な聖書用語を把握するとともに、それら鑑定語とすることができた。さらに、鑑定語として認定できた訳語について、その訳語が何時、どのようにして形成されたか、またその後どのような変遷を

経たかなどを解明した。(平成30年度)

### 4. 研究成果

#### (1) 最適な版本の特定

訳語対照表を作成する際、版本の確定を行う必要が生じたが、漢訳聖書は訳本によっては版本が複数存在し、これまでそれら版本の研究が行われていないことが判明した。そこで、訳語対照表の作成を進める一方、版本の研究を行った。版本の研究では、まず複数存在が確認されているグリフィスによる浅文理訳聖書の版本の考察を「グリフィス訳浅文理新約聖書の版本とその訳文について『馬可福音』からの考察」(永井崇弘)で行った。この論文では1885年版、1886年版、1889年版、1898年版の4種の本文を比較し、グリフィスの浅文理訳本を1889年以前の版とそれ以後の版本に類型化できるとともに、版を重ねるごとに文理化されていることが明らかとなった。この論文によりグリフィスの浅文理では1889年版の本文を使用する妥当性が明確となった。また、「モリソンの漢訳新約聖書本文における異同箇所について」(永井崇弘)では、モリソン訳新約聖書についても版本間の異動が明らかにされるとともに、その訳文成立過程の具体が解明されている。この論文により、モリソンはバセの『四史攷編』を下訳として用い、ギリシア語の原文を参照しつつ、手を加えるという方法で訳文を完成させていることが明らかとなった。さらに、「关于马礼逊与马士曼所依据的新约圣经希腊文本」(永井崇弘)では、モリソン訳とマーシュマン訳が参照したギリシア語本文の特定が行われた。この論文により、モリソンの『新遺詔書』と『神天聖書』の訳文と1822年のマーシュマンの『聖經』の訳文はギリシア語本文に依拠して訳出されたのではないことが明らかとなった。また、モリソンが参照したギリシア語本文は公認本文であることは確認できたが、マーシュマンが 그리스バツハ本文を参照したという明確な証拠は見当たらないことが判明した。

(2) 訳語対照表と全文テキストの電子化  
訳語対照表はAの部分については11種の漢訳聖書の訳語を入力し、A~Zまでは4種類の漢訳聖書の訳語を入力して、各訳語を比較できるようにした。訳語対照表の作成作業は当初の計画よりも遅れたが、それは入力するデータの量がA4の三段組で約5000頁にも及んだためである。この訳語対照表への入力作業の効率化を図るために、バセ訳、マーシュマン訳、モリソン訳、文理和合訳、南京官話訳、北京官話訳、官話和合訳の7種については、まず全文テキストの電子化を行い、その電子化テキストを用いて訳語の対照表への入力作業を行った。この主要な漢訳聖書の電子化された全文テキストの作成は本研究における大きな成果であり、この成果は今後の漢訳聖書研究および中国語研究に大い

に利用できるものである。また、全文テキストの電子化を行うことで、各訳本の訳文における不鮮明文字や欠落文字を特定することもできた。特にマーシュマン訳とメドハーストの官話訳(南京官話)では不鮮明な印刷により、数多くの不鮮明文字と欠落文字があったが、複数の版本を探し出し、それに基づいてそれらの文字を特定することができた。

### (3) 論文および研究発表

このように、版本の研究、訳語対照表の作成と聖書本文の電子テキスト化を進めるうちに、1つの見出し語に対する複数の訳語を通時的に比較することができるようになり、訳語の変遷における鑑定語となり得る特徴的な訳語を見出すことができた。この鑑定語は漢訳聖書の系譜や訳文の成立時期を推定することに役立つ。本研究では、その特徴的な訳語のうち、時間表現の訳語と神の本質を示す「λόγος」(ロゴス)の訳語について詳細な考察を行った。国際学会で口頭発表された「圣经中的时间表现和汉译」(塩山正純)をもとに書かれた論文「聖書のなかの時間表現と漢語文理訳」(塩山正純)では、近代の西洋と中国の二つの文化間における時間表現の翻訳を主題として、近代西洋人の基督教宣教師が翻訳した代表的な文理訳聖書の訳語について、東西言語文化接触の過程において、西洋人宣教師たちがどのように聖書原典の時間表現を中国語に翻訳して表現しようとしたのかを通時的に考察した。この論文によって、西洋と中国の時間の尺度が異なるために初期の漢訳における時点と時量の表現ではある種の混乱が見られるが、後に時代の変化に伴い、文理訳聖書の時間に関する表現はいずれも十二支を代表とする中国の伝統的な時間表現の形式に収斂されていったことが明らかになった。また、「麦都思的官话译《圣经》和教科书与其语言特征」(塩山正純)では、メドハーストによる南京官話のマルコの福音書の訳文を早期の漢訳聖書および当時の官話で著された著作と比較する手法を通じて、虚詞を中心にその言語的特徴を明らかにした。この論文により、メドハーストの官話訳は人称代名詞については完全に口語であること、メドハースト訳は基本的に南京官話の特徴を備えているが、一部に北京官話に特徴的な語彙が見られることが分かった。また、南京官話と北京官話に共通する語彙が見られることから、南北間の官話に厳密な境界線が存在しないことや、同時代の官話教科書との比較から、メドハーストが南京官話訳聖書の翻訳に着手した頃には南京官話のなかで語彙の変化が生じはじめていたことも明らかとなった。

さらに、口頭発表「近代プロテスタント系漢訳新約聖書における「λόγος」の訳語の形成について」(永井崇弘)では、19世紀~20世紀における漢訳新約聖書において、神の本質・実体としてのギリシア語「λόγος」の訳語が如何にして形成されていったのかを明らかに

した。この口頭発表により、プロテスタント系漢訳新約聖書における「λόγος」の訳語は、マーシュマンやモリソンの最早期では字義的な訳語「言」が充てられ、メドハーストが関与したモリソン改訳以降は一貫として「道」の訳語が採用されていることと、今日にもその訳語や受け継がれている訳語を充てたメドハーストがプロテスタントの聖書漢訳史におけるキーパーソンであることが明らかとなった。このメドハーストが神の本質・実体を示す「λόγος」を漢訳する際、ヘレニズム的訳語である「道」を選択し、この「道」という訳語がその後のプロテスタント系漢訳聖書に受け継がれ、今日に至るまで用いられていることも分かった。

### (4) まとめ

以上のように、本研究課題に関連して研究論文5編、学会発表4件(このうち2件は国際学会で発表し一定の評価を得た)の研究成果を得ることができたことで、当初の本研究の目的は概ね達成できたものと言える。また、漢訳聖書の訳語対照表の作成や電子テキスト化に際して、不鮮明文字や欠落文字を特定するために大英図書館等での調査を行った(マーシュマン訳、南京官話訳)。原本や日本国内にない各種版本の本文の調査により、これらの文字が特定されたのも本研究における大きな成果である。なお、論文および研究発表レジメ、訳語対照表(部分)については、全180頁の報告冊子にまとめられている。その他については、電子媒体に収められている。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### [雑誌論文](計5件)

塩山正純、麦都思的官话译《圣经》和教科书与其语言特征、国際漢語教育史研究(商務印書館)、査読有、2018、印刷中

塩山正純、聖書のなかの時間表現と漢語文理訳、関西大学東西学術研究所紀要、査読無、第51輯、2018、印刷中

永井崇弘、关于马礼逊与马士曼所依据的新约圣经希腊文本、福井大学教育・人文社会系部門紀要、査読無、第2号、2018、1-9

永井崇弘、モリソンの漢訳新約聖書本文における異同箇所について、福井大学教育・人文社会系部門紀要、査読無、第2号、2017、1-17

永井崇弘、グリフィス訳浅文理新約聖書の版本とその訳文について、『馬可福音』からの考察、福井大学教育地域科学部紀要、査読無、第6号、2016、1-13

〔学会発表〕(計4件)

永井崇弘、近代プロテスタント系漢訳新約聖書における「λόγος」の訳語の形成について、平成29年度秋季福井大学言語文化学会、2017.12

永井崇弘、关于马礼逊与马士曼所依据的新约圣经希腊文本、東アジア文化交渉学会北京大会(第9回)、2017.5

塩山正純、圣经中的时间表现和汉译、東アジア文化交渉学会北京大会(第9回)、2017.5

塩山正純、漢訳聖書にみる『時間』の翻訳、関西大学東西学術研究所言語接触研究班第16回研究例会(資料から見る東西の言語交渉)、2017.1

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

永井崇弘 (NAGAI, Takahiro)  
福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(総合グローバル)・准教授  
研究者番号：80313724

### (2) 研究分担者

塩山正純 (SHIOYAMA, Masazumi)  
愛知大学・国際コミュニケーション学部・教授  
研究者番号：10329592

### (3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者  
なし